

# 中山くんの縁談

作／工藤千夏

○登場人物

中山くん（後の堀部安兵衛／二十四歳）

奥田さん（中山くんの友人／奥田孫太夫重盛／三十七歳）

市川菊（敵討ちの娘）

山本玄八郎（敵討ちの娘の従者）

安藤加賀之助（武士）

○とき

一六九四年（元禄七年）春頃。

※高田馬場仇討ちは一六九四年二月十一日。その後ほどなくして。

○場所

高田馬場の路上。

☆の台詞は重なる。

／は次の台詞に断ち切られる。

中山くんが、時間を気にしながら、待ち合わせ場所に立っている。玄八郎を伴って、菊、登場。

菊　つかめことをお訊ねいたす。

中山　はい。

菊　そなた、名前は？

中山　え？

菊　そなたの名はなんと申すかと尋ねておる。

中山　別に名乗るような者じゃありませんから。

菊　失礼な。女だと思って甘く見るでない。名を名乗れ！

中山　失礼なのは、そっちでしょ。だいたい、あなたどなたなんですか？

奥田さんが小走りにやってくる。

奥田　いやー、ごめん。待った？

中山　あ、奥田さん！

奥田　駅前、ビックボックスんとこ、すごい人でさー。中山くんの携帯、いくら／か  
けても

菊　（いきなり刀を構えて）おぬし、やはり中山か！　父の敵！

菊、中山くんに斬り掛かる。巧みによける中山くん。

玄八郎　お菊さま！

菊　玄八郎、大丈夫じゃ。

奥田　えーっ！　なに、これ。

菊　亡き父、市川伝右衛門の恨みはらさずにおくまいぞ。

菊、再び中山くんに斬り掛かる。巧みによける中山くん。

玄八郎 お菊さま！

菊 玄八郎、大丈夫じゃ。

奥田 わーっ！

中山 待って！ 待って！ 人違いですよ。

菊 卑怯者！ おぬし、中山に相違なかるう。

中山 ☆そうですけど。

奥田 ☆ことば、変ですよ。

菊 そなたも中山の手の者か。

奥田 手の者っていうか、ともだち、みたいな。道場一緒なんですよ。なっ。

中山 うん。

菊 えーい、ごさかしい！

菊、また中山くんに斬り掛かる。巧みによける中山くん。

玄八郎 お菊さま！

菊 玄八郎、大丈夫じゃ。

中山 市川さん……の娘さん、でしたっけ？

菊 いかにも。市川伝右衛門が娘、菊と申す。この者は、当家に仕える、  
玄八郎 山本玄八郎と申す。

玄八郎、丁寧におじぎをする。中山くんと奥田さんも丁寧に おじぎが終わると、緊張状態に戻る。

中山 私、市川さんって存じ上げないんですけど。

奥田 ☆そうなの？

菊 ☆この期に及んでなにを申すか！

中山 いや、ホントに。申し訳ないけど。

菊 父を斬った覚えがないと申すか！

中山 はい。

玄八郎 誠に覚えがないと申すか！

中山 はい。

奥田 もしかして、中山くんの十八人斬りで切られちゃった人？

菊 いかにも！

中山 ほんとに？

菊 えーい、覚悟！ 覚悟！

【S.E.】

菊、また中山くんに斬り掛かる。巧みによける中山くん。この動きはスローモーション。実は、菊が中山くんの財布をすり、玄八郎に渡しているのがはっきり見える。

玄八郎 お菊さま！

菊 玄八郎、大丈夫じゃ。

中山 ちょ、ちょ、ちょ、ちょっと待って。あなたのお父さんの市川さんは、本当にあのとき高田馬場にいらしたんですか？

菊 何を今更。

中山 市川さんは、菅野さんと果たし合いをした、村上庄左衛門さんの助っ人だったと  
いうことでしょうか？

菊 いかにも。

中山 村上三郎右衛門さんとは違う方ですよ。

菊 いかにも。

中山 中津川祐見さんでもないんですよ。

菊 いかにも。

中山 とにかく、私に斬られた。

菊 いかにも。

中山 何番目に斬られたんですかね？

菊 最後の方だと聞いておる。(空をにらみ) 無念じゃ。父上っ！

玄八郎 伝右衛門様！

中山 最後の方。

奥田 十七人目とか、十八人目とか？

菊 いかにも。

中山 高田馬場で？

菊 いかにも。

中山 他の十七人のみなさんと一緒に？

菊 いかにも。

中山 それ、嘘ですなあ。

菊 何を申す？

中山 ごめんなさい。実は、私、十八人も斬ってないんですよ。

奥田 ☆そうなの？

菊 ☆そ、そ、そなた、何を今更。

中山 一人でそんなに切れる訳ないじゃないですか。刃こぼれとかするし。常識で考え  
たらわかるでしょ。

奥田 でも、中山くん、強いからさ。

中山 たいしたことないです。

奥田 謙遜しなくていいんだよ。

中山 だって、本当に斬ってないんですよ。

玄八郎 一人も斬っていないと申すのか！

中山 一人もって訳じゃないですけど。

奥田 本当は何人切ったの？

中山 三人です。

奥田 三人か……。

中山 全然違うでしょ？ 三人と十八人じゃ。

奥田 三人だって凄いよ。

中山 僕が斬ったのは、村上庄左衛門さんご本人と、村上三郎右衛門さんと、中津川祐  
見さん、その三人だったんですよ。だから、とにかく、市川伝右衛門さんっていう方は  
斬ってない、っていうか、お目にかかってないです。野次馬はいっぱいたんですけど、  
あの中にいらしたんですかね？

菊 ……。

中山 あと、仇討ちって届け出必要だと思うんですけど、ちゃんと手続きしてらっしゃ  
います？

菊 無念じゃ。父上っ！

玄八郎 伝右衛門様！

★菊 御免つかまつる。

★玄八郎 御免つかまつる。

菊と玄八郎、逃げるように去る。

奥田 なにあれ。

中山 さあ。

奥田 もしかして、あれじゃない？ 仇討ち強盗。

中山 なんですか？ それ。

奥田 知らない？ 父の敵！ とか言いながら斬りつけて、こう、「命だけは助けてやる。ただし、拙者に斬られたという証しになるものを置いていけ」とか言って、金目のものを強盗するの。

中山 どう見ても強盗じゃないでしょ。

奥田 まあ、人見て襲えって感じだよ。向こうもびっくりしたんじゃない？ 相手が

高田馬場の中山安兵衛だなんて。

中山 あれ？

奥田 どうしたの？

中山 財布がないんです。

奥田 嘘。

中山 いや、ホントに。あれ？ あれ？

奥田 ああ、じゃ、仇討ち強盗じゃなくて、仇討ちスリだったんだ。

中山 仇討ちスリ。

奥田 仇討ち見物の人が狙われるって話はよく聞くけど、なるほど、こういう手口もある訳ね。

中山 ……。

奥田 いっそ返り討ちにしちゃえば良かったのに。

中山 いや、それはちよつと……。

奥田 じゃ、飲みに行こつか。

中山 なに言ってるんですか。これから稽古でしょ？ 急がないと、遅刻ですよ。

奥田 大丈夫、大丈夫。

中山 だって／

奥田 堀内先生、今日おやすみ。

中山 え？

奥田 師範代の代稽古になりましたってライン、きてたでしょ？

中山 まじっすか？ (ラインをチェックする) あ。

奥田 ね。

中山 (軽く舌打ち)

奥田 だから、飲みに行こう！

中山 ああ……すみません、遠慮します。

奥田 なんで？

中山 金ないし。

奥田 そんな理由？

中山 あんま好きじゃないんですよ。

奥田 俺のこと？

中山 お酒。

奥田 またまた。

中山 いやホントに。

奥田 だって、中山くんっていったら、「のんべえ安」の名前／  
中山 それホント勘弁してください。

奥田　なんで？　だってさ、八丁堀から高田馬場まで走る途中で、咽が渴いたって一升ひっかけてから駆けつけた訳でしょ？

中山　あり得ないでしょ。

奥田　そうお？

中山　八丁堀からだと十キロ以上ありますよ。そんな状況で一升飲む人なんかいませんよ。

奥田　いやあ、だから、中山くんって凄いなって思ってたんだけどね。

中山　ホント迷惑してるんですよ。イメージが一人歩きしちゃって。

奥田　ああ。

中山　だいたい、奥田さん、僕がすぐ真っ赤になって寝ちゃうの、何度も見てるじゃないですか。

奥田　演技だと思ってた。

中山　えー。

奥田　カモフラージュ？

中山　何をカモフラージュするんですか？

奥田　その、中山くんが、酒豪である、という、事実を？

中山　それ、僕になんかメリットありますか？

奥田　じゃ、行こうか。

中山　えー、だからあ／

奥田　ちよっと、話もあるしさ。

中山　なんですか？

奥田　おごるからさ。

中山　……。

奥田　あのさ、中山くん、今つきあってる人とかいるの？

中山　いませんよ、そんなの。

奥田　そう。

中山　なんですか、藪から棒に。

奥田　気になってる子とかは？

中山　特にいませんけど。

奥田　あ、そう。いやね、ある人に、中山くんをぜひ紹介して欲しいって頼まれちゃってます。

中山　そういうの、いいです。

奥田　え、なんで？

中山　だって、どうせ、高田馬場のアレで……とかそういう話でしょ？

奥田　うん、そうだけど。

中山　手紙とかも来るんですけど、そういうのはちよっと……。

奥田　手紙ってどれくらい来てるの？

中山　百通はいつてないですけど。

奥田　モテ期！

中山　まあ一応。

奥田　カワイイ子とかいる？

中山　手紙じゃわかんないですよ。

奥田　写真とか入ってないの？

中山　入ってる子もいますけど。

奥田　連絡した？

中山　しませんよ。

奥田　なんで？

中山　なんでって／

奥田 タイプじゃなかったの？  
中山 そういう問題じゃなくて。

奥田 じゃ、なんで？

中山 結婚とか考えてないし。

奥田 そうなの？

中山 だって、僕、奥田さんと違って、藩士じゃないですから。収入安定してませんもん。

奥田 仕官の口とかいっぱい来てるんじゃないの？

中山 それが、うまくいなくて。

奥田 なんで？

中山 最終面接までは行くんですよ。でも、十八人斬ってないって話すと、嘘つき呼ばわりされて……。

奥田 十八人ってことにしとけば？

中山 ソレだめでしょ。

奥田 ああ。

中山 堀内先生の代稽古で、いろんな藩の江戸藩邸とかに行きますけど、ま、バイトみたいなものだからね。それで家族養つたりはちよつと難しいですね。

奥田 うーん……中山くん、幾つになったんだっけ？

中山 二十四です。

奥田 もともと越後だっけ？

中山 はい。おやじは新発田（しばた）藩でした。おやじ、火事の責任とらされて追われた身ですから、土官は無理です。

奥田 伊予西条藩は何も言って来ないの？ それこそ、高田馬場の功績でさ。

中山 無理でしょ。菅野さんだけじゃなくて、村上庄左衛門も伊予西条藩ですから。

奥田 そっか。

中山 はい。

奥田 いっそウチ来る？

中山 奥田さんどこですか？

奥田 うん。

中山 赤穂藩でしたっけ？

奥田 そう。播州赤穂（ばんしゅうあこう）藩。播磨の国ね。来ちゃえば？

中山 奥田さん一人で決められる話じゃないでしょ。

奥田 それがさ、さっきの、中山くんを紹介して欲しいって人、堀部さんっていうウチの藩のエライ人んだけど、ぜひ、君を娘の婿にしたいって。

中山 いやあ、それはちよつと……。

奥田 なんで？

中山 だって、それ、その堀部家の家督をつて話ですよ？

奥田 うん。

中山 無理無理無理無理。

奥田 なんで？

中山 僕、中山ですから。

奥田 それは知ってるけど。

中山 中山の家を再興しないと。

奥田 えー、そうなの？

中山 はい。

奥田 大変じゃない、それ。

中山 はい。

奥田 一人っ子だっけ？

中山 姉がいますけど、もう嫁いでます。

奥田 そっか。でも、どっちにしる新発田藩は無理なんですよ？

中山 どの藩でもいいんですけど、とにかく再興しないと父も浮かばれませんから。

奥田 じゃ、中山のまんまでホリちゃんを嫁にもらって、で、赤穂藩に仕官して、堀部さんちに同居すればいいじゃない。

中山 ホリちゃん？

奥田 ホリっていうのよ、堀部さんとの娘。

中山 ホリベホリ？

奥田 美人だよ。

中山 ホリベホリ？

奥田 (携帯を出して) 写真見る？

中山 いえ、いいです。ホリベホリ？

奥田 ほらほらほら。

奥田さん、見まいとする中山くんは無理矢理写真を見せる。

中山 ……ああ。

写真は予想外に美人で、中山くんは実はちよつとうれしい。

奥田 ホリちゃんも、中山ホリになった方が喜ぶと思うんだよね。

中山 でも、それだと、婿をとる意味がないでしょ。

奥田 まあね。

中山 他の方にちゃんと継いでもらった方ががいいんじゃないんですか？

奥田 堀部さんもなかなか頑固な人でさ、一度言い出すときかないんだよね。

中山 困ったなあ。

奥田 堀部安兵衛って、こう大きく書いて、中山安兵衛よりかっこいいだろ、強そうだろうって俺に見せるの。

中山 マジすか。

奥田 とにかく、中山くんしかいないって。

中山 会ったこともないのに。

奥田 堀部さんはね。ホリちゃんと堀部さんの奥さんは、高田馬場の果たし合いのときに中山くんと話したって。

中山 ホントですか？

奥田 うん。

中山 あのと、たすきを忘れて、その辺に落ちてた荒縄を使おうとしたら、果たし合いにお縄は縁起が悪いって、腰紐ほどいて貸してくださった女性がいたんです。

奥田 ホリちゃんだね。

中山 たぶん……お母さんの方だと思います。

奥田 ま、どっちでも。

中山 ……赤穂藩って、どんな感じですか？

奥田 しよっぱい感じかな？

中山 しよっぱいんだ……。

奥田 赤穂といえば塩、塩といえば赤穂。

中山 ああ。

奥田 まあ、普通かな。

中山 ……普通。

奥田 やつと普通になったの。普通のありがたみを痛感する今日このごろ、いかがお過

ごしですか？ みたいな。

中山    なんかあったんですか？

奥田    気になる？ 気になる？

中山    いやあ／

奥田    すごいスキャンダルがあったのよ。でも、言うとなんか？ 赤穂藩に来たくな  
くなっちゃうか。やめとくわ。

中山    奥田さんが言い出したんじゃないですか。

奥田    んとね、昔、昔っていうか五十年くらい前？ 殿様が発狂して、正室を斬り殺し  
ちゃったの。

中山    えーっ！

奥田    いわゆる殿ご乱心ってやつ？ 正室だけじゃなくて、一緒にいた侍女も二、三人  
スパ―っ、スパ―っ、スパ―って。

中山    マジすか。

奥田    お取り潰しはなんとか免れたんだけど、当然、殿様は改易だよな。

中山    はい。

奥田    それで、全然関係ない常陸の国から、新しい殿様が来た訳。

中山    そうなんですか。

奥田    で、その殿様が妙にやる気出しちゃって、石高に見合わないチヨ―立派な城を十  
三年もかけて作っちゃったのね。城下町もびしーって整備して、財政悪化の一途。もう  
武士も農民も、みんな食べるものがなくなっさ。

中山    あー。

奥田    もう塩しか頼るものがないって、塩をつくっては売り、塩を作っては売り。

中山    ああ。

奥田    相撲のときにさ、塩まくじゃない？ あれ、うちの家老の大石さんが仕掛けたの  
よ。電通と組んで。

中山    へえ。

奥田    嘘。

中山    ……。

奥田    いや、塩で復興したのはホント。で、今は、その築城した殿様の孫、浅野内匠頭  
が三代目ね。三代目だから、ちょっとわがままなんだけどね。ま、やっとこのごろ普通  
になりましたとさ。

中山    なかなか大変な藩ですね。

奥田    まあね、どこも似た様なもんでしょ。

中山    奥田さん家って、ずっと赤穂藩なんですか？

奥田    いや、元々は鳥羽（とば）藩。

中山    鳥羽藩って？

奥田    志摩国。

中山    伊勢の方ですか。

奥田    そう。

中山    なんでまた、赤穂に？

奥田    うちのおやじがね、俺が五歳のときに、二代目の殿様？ 今の殿様の母上のお輿  
入れで付き人として江戸に来て、赤穂藩の江戸藩邸に勤めたの。それ以来俺もこっち。

中山    ああ。じゃ、親子で赤穂藩に。

奥田    それが違うの。おやじは今は浪人。

中山    え、どうしてですか？

奥田    これもまたスキャンダルなんだけどさ……気になる？ 気になる？

中山    ……。

奥田    ちょうど十五年前に、鳥羽藩の殿様がご乱心で、丹後宮津藩の殿様を殺めちゃっ

てさ。家綱様のご葬儀の場だよ、あり得ないでしょ？

中山 はい。

奥田 殿様も改易、おやじも浪人みたいな？

中山 ああ。

奥田 俺は元服前に鳥羽藩から赤穂藩に移ってたから、温情でそのまま赤穂藩にいていいってことになって。まあ、そんなこんなで赤穂藩には恩義がある訳よ。

中山 奥田さんも意外と苦勞されてるんですね。

奥田 だからさ、中山くんみたいないい人材は、ぜひ赤穂藩に入りたいな、みたいな。お気持ちはありがた／

奥田 つくづく思うんだよね。殿様みたいな立場の人は、刀のさやに手かけたときに、これ抜いたらどれくらいの人に迷惑かけるか、ちゃんと考えて欲しいって。

遠くでけんかしている犬の鳴き声が聞こえてくる。(裏にいる俳優が演じる)

奥田 お犬様がけんかしてらっしゃらあ。

犬のけんか、勝負がついて鳴き声が止む。

中山 大丈夫ですよ。殿ご乱心とかそんなの、人生にそう何度もある訳ないじゃないですか。

奥田 そうだよな。

中山 はい。

奥田 中山くんだって、こんな天下太平の世の中で十八人も斬ったんだから、あとは平穩無事に暮らせるよ。

中山 だから、十八人斬ってないんですってば。

笑い合う二人。

中山 ……奥田さん。

奥田 どうしたの、あらたまって。

中山 大変申し訳ないんですが、やっぱりその縁談、お断りさせてください。

奥田 えーっ、どうして？

中山 すみません。

奥田 やっぱ、赤穂藩だとだめ？

中山 赤穂藩は大変魅力的です。

奥田 婿養子がだめか。名前の問題なら、俺、堀部さんにちゃんと言つよ。

中山 いえ……。

奥田 え、じゃ、俺？ 俺と一緒に藩っていうのがイヤ？

中山 ……これ、何の為に差してるんでしょうかね？

奥田 え？

中山 僕、もう刀、抜きたくないんです。

奥田 中山くん……。

中山 実は、武士を辞めようかなって考えてるんです。高田馬場の一件以来、武士ってなんなのか、よくわからなくなっちゃって……。

奥田 ちょっと待ってよ。

中山 ま、辞めるっていつでも、何をしたらいいのか皆目見当もつかないんで、しばらくは寺子屋で手習いの師匠でもやりながら考えてみようかなって。

奥田 剣術は？

中山 今の世の中、剣術って役にたつんでしょうか？

奥田 たつでしょ。

中山 どんな風に？

奥田 だから、仕官とか？

中山 そういうんじゃないくて。

奥田 堀内道場の四天王がそんなこと言ったら、他の人は立つ瀬がないよ。

中山 徳川の時代になって、そろそろ百年です。人を斬ったことのない武士がたくさんいます。奥田さん、人斬ったことありますか？

奥田 ない……かな。

中山 僕も、本当に斬ったのはこの前が初めてでした。斬った後、なんか、変な気持ちになりました。人を殺めたのに、そのあと、ご飯食べたり、風呂入ったり、誰かと話して笑って普通に生活してるっていうのが、なんかホント変な感じで。戦とかなら、戦場と家が離れてるから、気持ちの整理が付きやすいんでしょうかね？

奥田 ……。

中山 変でしょ？人を殺めたのにほめられて、十八人も斬ったって尾ひれまでついて、僕は、菅野さんを守りたかっただけなのに……。

奥田 菅野さんは絶対中山くんに感謝してるって。

中山 だって、菅野さん死んじゃったんですよ。助太刀とか偉そうに言ってたって、結局助けられなかったんだから意味ないです。

奥田 でもさ、もし、相手がまだ全員生きてたら、中山くん、どう？

中山 どうって……。

奥田 なんか、落着かなくない？

中山 それは、まあ……。

奥田 菅野さんだって、浮かばれないんじゃないの？

中山 ……。

奥田 敵側に、三人分のダメージを与えたっていう事実を事実として受けとめようよ。

中山 ……。

奥田 中山くんはよくやった。菅野さんも、草葉の陰で喜んでると思うよ。

中山 ……そう思えたら楽なんですけど。

菊と玄八郎が逃げてくる。安藤、追いかけてくる。

安藤 待てえ！ 待てえ！

顔を見合わせる中山くんと奥田さん。

中山 どうしたんですか？

菊 お助けください。

玄八郎 お助けください。

安藤 ええい、どけ！ 邪魔立てすると容赦せぬぞ。

菊 どうかお助けください。この男が、玄八郎が親の敵などと言いがかりをつけてきたのじゃ。

中山 さっきは僕が敵でしたよね？

安藤 陸奥国黒石藩藩士、安藤英之進の恨みはらさずにおくまいぞ。

菊 だから、安藤英之進など知らないと申しておるであらう。のう、玄八郎。

玄八郎 いかにも。

安藤 しらじらしい。父の敵、山本玄八郎！ 覚悟！ 覚悟！

安藤、玄八郎に刀を向ける。

菊 このような老人を斬るなどと、そなた、武士の情けというものがないのか。

菊、安藤をにらみつける。玄八郎をじっと見つめる安藤。

安藤 ……命だけは助けてやろう。ただし、拙者に斬られたという証しになるものを置いていけ！

玄八郎、刀と財布を置く。

中山 あ！

安藤、刀と財布を手取る。玄八郎、菊の元へ。

菊 玄八郎。

玄八郎 お菊さま！

安藤、去ろうとする。

中山 あのお、その財布、ちょっと見せてもらっていいですか？ たぶん、僕のじゃないかと思うんですけど。

安藤 何を申す？

奥田 そうそう。さっき、ここでこの人たちにスられちゃって。

安藤 渡すまいぞ。これぞ、山本玄八郎の証し。

中山 証しっていわれても。

奥田 あ、仇討ち許可証はお持ちですか？

安藤 いかにも。

奥田 じゃあ、見せてください。

安藤 おぬしに見せる必要などない。

中山 みんなで番所行きましようか？

安藤 おぬし、拙者を疑うのか？

奥田 なんか手口が仇討ち強盗っぽいよね。スリが強盗に合っているのも、どうかと思っけ。

安藤、奥田さんに刀を向ける。

安藤 今、なんと申した？

奥田 え、俺？

安藤 今、なんと申した？

奥田 いや、特に……。

安藤 拙者の仇討ちを、拙者の仇討ちを……仇討ち強盗などと……。

奥田 いや、その……。

安藤 許せぬ。おぬし武士を愚弄するか！

奥田 いや、別にそういうつもりじゃ……。

安藤 果たし合いじゃ。刀を抜け。

奥田 中山くん。

中山 ……。

安藤 ええい、いまいましい！

安藤、じりじりと奥田に迫る。

安藤 どういつもこいつも刀の錆びにしてくれる。  
玄八郎 待ちなさい。

安藤、動きを止める。

玄八郎 言い訳は致すまい。山本玄八郎、この白髪首、喜んで献上致す。（念仏を唱え始める）

菊 玄八郎……。

安藤、ゆっくりと玄八郎を斬る体制に入る。

中山 安藤さん。

安藤 ……。

中山 仇討ちの成功率ってどのくらい知ってますか？

安藤 ……。

中山 一％にも満たないんだそうです。

安藤 それがどうした？

中山 玄八郎さん。

玄八郎、念仏をやめる。

中山 玄八郎さんは、どのぐらい旅をしてらっしゃるんですか？

菊 私と玄八郎は五年前に／

中山 あなたに聞いてるんじゃない。

玄八郎 ……かれこれ、三十年になります。

中山 三十年ですか……三十年間。逃げている人と追いかけている人がいる。そんな長い間、人って、人を恨み続けられるものなんですかね？

安藤 仇討ちは恨みをはらすためのものではない。おぬし、武士のくせにそんなこともわからぬのか。

中山 安藤さんも三十年ってことですか。

安藤 いかにも。兄に連れられて藩を出たのは、まだ元服したばかりあった。それ以来故郷には戻っておらぬ。

中山 教えてください。そうまでして、武士でいなきやいけないんですか？

安藤、答えずに刀を構える。

中山 武士ってなんなんですか？

玄八郎、中山を一度見る。そして、また、念仏を唱え始める。

中山くん、ゆっくりと刀を抜く。

M

構えずに刀を持っている手をだらりと下げているが、その殺気は凄まじい。すこ

い腕前であることがわかる。

【SE】犬の遠吠えひとつ。

永遠に思える三十秒。

安藤、闘わずして負けを認め、ゆっくりと刀をおろす。息が切れている。

安藤　もう追わぬ。だから、もう逃げるな。

玄八郎と菊、深くおじぎをして去る。

安藤　失礼つかまつる。

安藤はおじぎをして、玄八郎と菊とは違う方向に去る。去る安藤を見つめる中山くんと奥田さん。中山くん、刀を鞘に納める。

中山　奥田さん。

奥田　なに？

中山　……刀、抜いちゃいました。

奥田　……飲みに行こっか。

中山　はい。

話しながら去って行く二人。

奥田　ホリちゃんのことだけどき、会っただけ会ってみない？

中山　いやぁ……。

奥田　ほんと、会っただけでいいから。合コン、みたいな軽い感じでさ。

中山　あ、財布！

奥田　大丈夫大丈夫、おごるから。

M

犬の遠吠え。

了